東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2006 年 4 月 13 日

植精神的肉体的けがれから遠ざかる方法ウドゥーと礼拝

親愛なるムスリムの皆様。ウドゥーと礼拝は、宗教的生活において切り離す事のできない要素です。ウドゥーは礼拝、カーバにおける周回のようないくつかの崇拝行為を行なう際に必要な前提条件です。クルアーンでは、「．信仰する者よ、あなたがたが礼拝に立つ時は、顔と、両手を肘まで洗い、頭を撫で、両足を踝まで（洗え）。」（食卓章第 6 節）と命じられ、ウドゥーの方法が明らかにされています。ウドゥーは、物質的なよごれから清められること、かつ精神的な意味でも清浄の象徴であり、またこれは非常に意味深い形式になっています。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は、「誰であれ、正しくウドゥーを行なえば、その人の罪は、爪の下に至るまで、体のあらゆる部分から取り除かれる。」とおっしゃられ、正しい形で行なわれたウドゥーの徳を説かれたのでした。

親愛なるムスリムの皆様。教えの柱である礼拝も、罪や過ちによってけがされた私たちの心を清めるイバーダです。礼拝によって、私たちは自らの本質、真の姿に戻ります。礼拝によって生き方を統制のとれたものとし、私たちの時間に価値を与えます。疑いもなく、礼拝は、願いや救いを求める祈りがアッラーの御前において承認されるための最良のあり方です。

親愛なるムスリムの皆様。人は、時としてこの世界の偽りの快楽や忙しさのため、しもべという意識から遠ざかることがあります。全てがアッラーに問われるということ、死や、天国、地獄の存在を忘れることがあります。精神と肉体の全体でなされる日に五回の礼拝は、この忘却を防ぎ、信者の意識や意志をよい状態で保ちます。だから礼拝は、アッラーの結びつきが常に保たれている状態を作り出すのです。

親愛なるムスリムの皆様。私たちの人生で最も尊い時間は、イバーダをして過ごした時間です。だから礼拝をさっさと済ませてしまったりせず、キヤーム、ルクー、サジュダといったそれぞれの段階をきちんと行なう必要があります。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は、教友たちと語らっておられた時、最も悪い盗みとは、礼拝を盗むことであるとおっしゃられました。教友の一人が「アッラーの使徒よ、人は礼拝をどうやって盗むのですか」とたずねると、「ルクーやサジュダをきちんと行なわないことによって」と応えられたのでした。

親愛なるムスリムの皆様。条件を守ってなされる礼拝は、崇高なるアッラーのお言葉をお借りすると、悪事や醜行に対抗するものとなります。五回の礼拝において、全身全霊でアッラーに向かい、敬虔さのうちに行ないましょう。礼拝における敬虔さとは、アッラーの御前で、その偉大さを心から感じ、敬意に満たされてこのイバーダをおこなうことです。だから信者は、この敬意を妨げるあらゆるものに対して注意していなければなりません。忘れないで下さい。礼拝を敬虔さのうちに行なう信者は、安らぎを得るのです。（信者たち章第１－2 節）誠実さやイフラースに欠けていたり、まして見せかけや偽善としてなされるイバーダは、それを行なう者に何の利益も与えないということを忘れてはいけません。

今日のフトバを、次の章句で締めくくります。「あなたに啓示された啓典を読誦し、礼拝の務めを守れ。本当に礼拝は、（人を）醜行と悪事から遠ざける。なお最も大事なことは、アッラーを唱念〔ズィクル〕することである。アッラーはあなたがたの行うことを知っておられる。」（蜘蛛章第４５節）